

あすなろ

令和4年8月26日
中津川市立川上小学校
学校だより 8月号

二学期スタート！多くが実りますように。

校長 中山 英三 <8月16日記>

以前、私は子どもたちに「ドラえもん」の話をしました。

その昔、ドラえもんの秘密道具に「どこでも電話」なるものがあったそうです。どこからでも電話をかけられるという“夢の道具”なのですが…ん？これって携帯電話ですよ。「どこからでも電話がかけられたらいいな」という夢は、人類の叡智により、今や現実となっていることが分かります。

「どこでも電話」に限らず、ドラえもんで“夢”として登場した秘密道具の多くが、今、実際に発明されているそうです。そのことを例に引きながら、「夢や目標はかなうもの。みんなも、夢や目標をもとう！」といった内容のことを、私は児童に話しました。

さて、8月26日の二学期始業式で、私は「猿」の話をする予定です。その中身を簡単に紹介します。

昔、学者と学生との間で次のようなやりとりが実際にあったそうです。あ、もちろんセリフは私が勝手に考えたものですので、悪しからず。



学者：え～、人間の祖先は猿である。猿が長年かけて進化して、人間になったわけじゃな。

学生：何が進化のきっかけとなったのですか？

学者：もともと木の上で生活していた猿が地上におり、しかも二足歩行を始めたことがきっかけじゃ。

学生：でも、猿はなぜ地上におり、二足歩行をし始めたのですか？

学者：いい質問じゃ。それは、猿が自分でそうしようと決めたからじゃ。自分でそう決めたからこそ、人間への進化も始まったわけじゃな。

この話から導き出される結論（子どもたちへのメッセージ）は、「“こんな自分になりたい”と強く心に決めよう！そして、自分を進化（≒成長）させよう！」といったものです。実はドラえもんの話とメッセージはほぼ同じ。可能性のかたまりのような子どもたちを前に、つついこの手の話をしたくなってしまうのかも知れませんね。

7月。地域の方に切らせていただいた竹に、みんなの願い事を書いた短冊を吊るしました。そこには「美容師になれますように」「サッカーがうまくなりますように」「漢字テストで満点がとれますように」といった、子どもたちそれぞれの夢や目標が書かれていました。夢や目標に「大きい」「小さい」などと評価をつけるのは、大人の勝手な尺度なのかも知れません。その子が今求めているもの、その子にとって今必要なこと、目指す目標が、それぞれの短冊にはしっかりと書かれていました。それらの短冊を見ながら、どの夢もどの目標も平等に大切にしたいなと、しみじみ思ったものでした。

子どもたちが、夢や目標をもってこの二学期を実り多きものとできますように。

引き続き、本校の教育活動に対するご理解とご協力をよろしくお願い致します。

鷹見光輝教頭より

鷹見先生は、中津川市立西小学校で教頭を務めています。毎週木曜日に本校を訪れ、5年生の家庭科授業や川上小の様々な校務をこなしてくれています。今回、そんな鷹見先生が川上小の印象について文章にまとめてくださいましたので、以下に紹介させていただきます。

「川上小学校から聞こえる音」

鷹見 光輝 <8月10日記>

川上小学校に来させていただき、一ヶ月が経ちました。週1回木曜日だけの勤務なので、まだ川上小学校のことを十分分かっていないかもしれませんが、それでも川上小学校のよさを十分に感じる事ができました。

私 「おはようございます。」

児童 「おはようございます。(この人は誰なんだろう・・・)」

不思議そうな顔をしながらも、あいさつを必ず返してくれる川上小の子どもたち。

川上小学校の児童との初めての出会いは、パーゴラと呼ばれる児童玄関前でした。



ランドセルについている熊鈴がチリンチリンとなり、大量の汗をかきながら高学年が下級生を先導しながら登校してくる姿を見て、頼もしいなあと思いました。そう、川上小学校の一日は、子どもたちのランドセルについているクマ鈴の音から始まります。

授業中は、無音と子どもの声が交互に訪れます。無音の時は、子どもたちが何か考えているとき、子どもの声が聞こえるときは、発言や何かつぶやきをしているときです。ザワザワするような落ち着いた音は聞こえません。

休み時間には、音が変わります。運動場では、遊具を使って遊びながら友だちとおしゃべりする声、野球をしていてバットにボールが当たる音、体育館ではドッジボールをして駆け回る足音や楽しそうな子どもたちの歓声、教室内では、タブレットを使って子どもたちがインターネットを見ながら会話する声。生き生きとした音がたくさん聞こえてきます。

給食時間には、エアコンや冷風機の音がうるさく聞こえるほど静かな中で、図書委員による全校放送の音が響きます。コロナ禍で制約があり不自由な中でも、みんなができることをやり、活動を創り出している音です。給食をゆっくり食べる子に対する、先生方の「食べられるだけがんばって食べようね。」という優しい声かけも聞こえてきます。

これらの音は、全国のどの小学校でも聞こえる音だと思います。しかし、川上小学校の音は、どの音も優しく心地よく聞こえます。それはなぜかと考えてみると、川上小学校の職員と子どもたちが一緒になって、一人一人を大切に、それぞれに活躍する場をつくっているからではないかと私は思います。

全校児童が体育館に集まり人権集会を行うことができました。そこでは、低学年であっても全校の前に出て発表する場があったり、発表がうまく言えない子がいても言えるまで待っていたり、川上小学校の子どもと職員が一人一人をよく理解し、大切にしていることが、伝わってきました。

下校時になると、「さようなら。」という、子どもの元気な声と共に、クマ鈴の音が遠くに消えていきます。川上小学校の一日の終わりの音。そして、追いかけるように聞こえてくるさびしげなヒグラシの鳴き声。夏休みになり、しばらく川上小学校の音は聞こえませんが、8月26日には、またクマ鈴の音が遠くから聞こえてくることを、今から楽しみにしています。